

## 平成28年度第1回川崎市農業振興計画推進委員会議事録（摘録）

- 1 開催日時 平成28年5月23日（月）15：00～16：35
- 2 開催場所 川崎市都市農業振興センター（高津区梶ヶ谷2-1-7）3階会議室
- 3 出席者
  - 出席委員（14名）  
竹本委員、徳田委員、梶臨時委員、越畑委員、長谷川委員、  
木所浩美委員、木所大輔委員、岩井委員、日野委員、  
小川名委員、田村委員、関口委員、松成委員、深澤委員
  - 事務局（6名）  
都市農業振興センター所長（柏井）、  
農業振興課長（倉）、農地課長（松川）、農業技術支援センター所長（二郷）、  
農業振興課課長補佐（木田）、農業振興課担当係長（川口）
- 4 議題（公開）
  - （1）農業担い手経営高度化支援事業について
  - （2）農商工連携推進事業について
- 5 傍聴者  
なし
- 6 会議の内容
  - （1）開会（木田農業振興課課長補佐）  
平成28年度第1回川崎市農業振興計画推進委員会の開会を宣言
  - （2）開会挨拶（柏井所長）
  - （3）配布資料確認、委員会目的及び会議公開の確認（木田農業振興課課長補佐）
  - （4）事務局異動者紹介

(5) 議事録 (摘録)

『議事(1) 農業担い手高度化支援事業について』

【竹本会長】

議事(1) 農業担い手高度化支援事業について、事務局から説明を願いたい。

【事務局：倉】

「資料2-1」農業担い手経営高度化支援事業の概要について」と「資料2-2」担い手経営高度化支援事業のフロー」を基に、事業内容及び認定農業者について説明。

【竹本会長】

事業について、要望等があったら、ご意見をいただきたい。

【長谷川委員】

開会挨拶で柏井所長からお話のあった「持続的・自立的」の意味をお教えいただきたいということと、事業内容説明で審査部会について、「別途部会」という言葉が倉課長から出てきたので、この2点について教えていただきたい。

【竹本会長】

まずは、「持続的」「自立的」の意味合いについて、柏井所長の方からお願いしたい。

【事務局：柏井】

「持続的」については、農地の維持保全も含めて考えている。農地管理をする生産者にがんばっていただきたいので、生産者への支援によって農地が維持保全されるという考えでいる。「自立的な」という意味は、都市の農業については、販売先に困ることはない。一方で生産量及び農地について限りがある。生産されたものに付加価値をつけて、より高く販売をする農業経営に寄与できればと考えている。そのようなことにより、次の世代に農業が引き継がれることを行政として支援したいということで川崎市農業振興計画基本戦略1に「持続的な農業経営に向けた支援」ということを記している。

【長谷川委員】

地域のリーダーとしてしっかり活動をしている人もいる。そういう人の意見も聞いていただきたい。意見だけが先行して審議されたのでは意味がないので、地域にフィードバックしてみなさんによく確認して、こういう事業をすることが地域には望ましい、活性化をもたらすということを行政のみなさんとの摺合せが必要。願わくば、もう少し詳細に地域の現状を確認していただきたい。

【竹本会長】

今の長谷川委員のご意見について、私の理解を述べさせていただく。まずは農業経営に持続性がなければならぬのは当然のことである。自立性というのは、農業経営はひとつの私経済、個別の経済であるので、それ自体として自立していくことが大切事という観点からこの言葉が入っているわけだが、今の長谷川委員の意見は、ではその支援をするとき

に、認定農業者というとりわけ抜きんできた農業者に対して支援をしていくだけではなくて、地域として、それぞれ小さい農家であるが、一緒ががんばっているという組織的な経営に対しても十分な支援をしてほしい、というご意見でよいか。

【長谷川委員】

はい。

【竹本会長】

今回の施策は、個別の認定農業者ということで計画されていて、これは自分の意見であるが、次のステップとしては、光をあてる部分をもう少し広く考えて地域農業として頑張っている人たちに広げてはどうか。特に共有の施設の改築等おそらく今後いろいろな所で問題として出てくる。そういうところへの支援として今後考えて欲しいという意見ということでよいか。

【長谷川委員】

はい。

【竹本会長】

もう一点は、先ほどの「別途部会」について、倉課長にお願いしたい。

【事務局：倉】

私の説明が誤解を与えてしまったかもしれないが、本事業については、川崎市農業振興計画「基本戦略1 持続的・自立的な農業経営に向けた支援」にあてはまるものである。本来推進委員の皆様は、皆様に諮るものという捉え方をされているかもしれないが、内容については農学の専門的な見地とか、経営学的な専門的な見地が必要となることから、農業振興計画推進委員会の中に、それとは別に審査部会を置いて申請がなされた事業計画の確実性や経営計画等について公正中立的に判断いただくために審査部会を設けて審議をしていただくという内容の説明のつもりであった。最終的には審査部会はこの4人の先生方で限られた予算の中で事業配分の金額の決定までしていただく予定である。

【長谷川委員】

それぞれ地域の特性がある。ここにいらっしゃる委員の方は、我々と情報が随分ずれている。我々としてはみなさんに判断いただくときには的確に報告をして判断していただかないといけないと思っていた。

【事務局：倉】

では、みなさんの意見に偏りができない範囲で、場合によっては事務局で地域特性の話もさせていただくということでしょうか。

【長谷川委員】

結構だ。

【竹本会長】

もう一点、ここに書いていないが、部会での審議結果について推進委員会で委員の皆様は報告するというをお願いしたい。

【事務局：倉】

はい。

【竹本会長】

その他今ご説明いただいた高度化支援事業についての質問等あるか。

【木所浩美委員】

申請した人は、100%くらいの割合で採択されているのか。

【竹本会長】

倉課長。

【事務局：倉】

はい。今年から始まる新規事業なので、申請者数と採択者数の割合は言えないが、認定農業者の方が申請する資格があるということである。先ほど事業内容説明時に述べた5つの新機軸の事業に限っている。今までの認定農業者は農業経営改善計画を出しており、その計画を変更するという形になる。

【木所浩美委員】

では新たに今行っている計画に対してさらに改善を図らないと受けられないということか。

【事務局：倉】

新しい技術や、作物転換等が計画されていればこの支援事業にエントリーできるという条件である。

これまで全く認定農業者を受けていない方については、改めてこの機会に当該補助対象事業を入れた上で農業経営改善計画を出していただくことになる。

【木所浩美委員】

その後5年くらい結果が出るか出ないかというような追跡調査を行うのか。

【事務局：柏井】

認定農業者になろうとする場合に経営改善計画の作成、提出が必要となるが、その経営改善計画というのが現在から5年先を見越した計画づくりになる。これまでは、作りっぱなしのようなどころもあったが、今後は、1年目の検証、2年目の検証、・・・を5年まで達成できたかフォローしていこうと考えている。

【木所浩美委員】

では補助金交付対象者それぞれに応じたフォローアップをやる予定なのか。

【事務局：柏井】

そうだ。補助金を出したからそこを見届けるというわけではなく、改善計画が達成できるようにフォローしていく。

【木所浩美委員】

露地栽培は経営計画を立てるのが難しい。施設栽培ならある程度計画を立てやすい。

【事務局：倉】

いろいろな作目によってやり方考え方、難易度等が違うと思う。

【木所大輔委員】

資料2-1「農業担い手経営高度化支援事業の概要について」の1目的に、経営規模の比較的大きい担い手層の・・・とあるが、ある程度経営規模がないとこの支援は受けられないということか。

【事務局：倉】

事業を効果的に発揮するためには、ある程度の基盤が必要だと思っている。この事業も最大の効果ということで資金面に関してもある程度のまとまりが必要だと考えている。このような意味でこのような書き方をしている。

【竹本会長】

補足すると、規模の考え方というのは2つあって、規模と集約度、すなわち面的な規模だけではなく、そうではない規模の考え方もある。土地が狭くとも資源をそこに投入して、きっちり使いきるか、という面での見方もある。もう少し幅広く考えて大きな経営だけではなく、面的には小さくても集約的にやっているという経営も踏まえているとご理解いただきたい。

【木所大輔委員】

ありがとうございます。

【竹本会長】

他によろしいか。

【木所浩美委員】

希望だが、認定農業者に応募したけれども選に漏れた人は自費でやるかもしれない。それに対してお金は出せないが、その人はやる気があるのでフォローアップをしてもらえたら嬉しい。落ちたらその人は対象外、ではなく、やる気のある人はいるから、そういう人も救って行ってあげて欲しい。

【事務局：倉】

農業経営改善計画自体川崎市が認定しているという責任もあるので、今お話しがあったことについても、川崎市としてもある程度責任を持って考えていきたい。

【竹本会長】

認定農業者になるということも大事、なった後のことも大事だが、認定を受けるための経営改善を自分なりに考えてみるというプロセスが非常に大事である。また、経営改善計画が市の計画と一致しているということが認定の条件であるので、市の方向性にできるだけ近づけていくこと、すぐに合わなくても何度も何度も相談をして経営の改善をそれぞれが図っていくというところに一番大きな目的がある。認定農業者になるまでのプロセスを重視してもし一度でだめでも、市はもちろん農協も協力体制と一緒に考えていただきたい。一人ひとり、あるいは各地域における農家が力強くなることを大原則として考え、市がそこを外れそうになったらまた委員の皆様からご意見いただければと思う。

**【深澤委員】**

木所浩美委員の意見で、これは川崎の事業であるが、県には農業改良普及指導員がいる。農業普及指導員の方も認定農業者の数に合わせて指導員の数も決まっているが、神奈川県は都市農業が多いのでどうしても認定農業者だけと対象を絞ってしまうと限られた人しか指導できないという形になってしまう。もう少し間口を広げたいと考えている。フォローアップは普及指導員が得意であり、川崎市と協力させていただくので、声掛けはいつでもしてほしい。

**【徳田副会長】**

補助率が1/2以下というのはやや厳しい条件ではないかという気がする。自分でもある程度お金を用意していないとこの補助を受けられない。これはどういう考えか。

**【竹本会長】**

以前は2/3補助というのもあったようだが、今は1/2が上限ではないか。国の補助金もそうであるが、災害対策等を別にすると通常の経営の補助金の上限はこのあたりだろう。

**【徳田副会長】**

単に補助金だけに依存するのではなく、自立した形で応募してほしいということであろうか。

**【岩井委員】**

川崎市内の農業の遊休地を川崎市外の方が事業者として応募するのは可能か。

**【事務局：倉】**

川崎市内の方を対象としている市内認定農業者の方の支援アップということと、市内認定農業者の数を増やしていきたいということが根底にあり、そのための支援事業と位置付けている。

**【越畑委員】**

この事業が今年からできたということだが、738万円という金額で何年くらい継続する予定か。

**【事務局：柏井】**

28年度の新規事業であり、32年度までの5年間の事業ということで計画をしている。

**【越畑委員】**

今年からセレサモスや直売所に出荷する補助金をゼロにしてこの事業が新たにできたと聞いている。大きな認定農業者を育てていくことは必要だが、地域には大きな農家だけではなくて、小さい農家もいる。今年度小さい農家への支援を、農協は市に代わってやってくれているが、補助金の対象にならない人たちも支援していく姿勢を市として持っていてもらいたい。

**【竹本会長】**

最初の長谷川委員の意見に通ずるものがある。

**【長谷川委員】**

過去10数年前にグリーンツーリズムの計画があったが、とん挫したことがある。できるだけの確に仕事を進めて、間違いなく地域の中で農業者が活性化するような方向に是非導いてほしい。

**【事務局：柏井】**

計画にも位置づけている農業振興地域の活性化ということで、事業としては、それぞれ岡上地区、黒川地区、地域の抱えている問題、その中で生産者が抱えている問題、いろいろあると思うが、それぞれ地域別に入って地域課題解決に向けた事業といったものを細かに協議させていただきたいと思う。予算の方も農業振興地域については別建ての予算を行っていき、認定農業者の事業とは別建ての事業で考えているので、ご理解、ご協力をいただきたい。

**【竹本会長】**

川崎市農業振興計画の18ページにグリーンツーリズムについて触れている。長谷川委員が発言したように、15年前に委員会ができて、これから少し考えていこうとなったが、そのことと農業振興計画の全体の流れと必ずしも一致していないところがあり、話がとん挫してしまうことがあったように思う。気運が盛り上がったが、そのあと実行できなかった。今回、計画書の中にもそういう要望があることが載っているのだから、これからどういう施策が立てられるのか考えていただきたい。

**【事務局：倉】**

他になれば事務局からよろしいか。

**【竹本会長】**

はい。

**【事務局：木田】**

本日柴原委員がご欠席ということで前回の3月17日開催したこの会議で竹本会長から、柴原委員が欠席の場合はJAセレサの梶常務に臨時委員としてご出席いただきたいということで皆様にもお諮りしたところ、ご了承をいただいたところだ。本日は前もって出欠を確認したところ、柴原委員が欠席ということで前回の決議に従って、梶常務に臨時委員としてご就任いただきたいということで来ていただいた。遅くなってしまったが、これから委嘱式を行いたい。所長、お願いします。

(6) 梶臨時委員の委嘱式

## 『議事（２）農商工連携推進事業について』

【竹本会長】

議題（２）農商工連携推進事業について、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局：倉】

資料３－１農商工等連携推進事業概要と資料３－２「都市農業活性化連携フォーラム」キックオフ概要案、資料３－３都市農業活性化連携フォーラム声かけメンバー参考素案を基に、事業内容について説明。

【竹本会長】

事業の内容については、ご質問、ご意見、フォーラムについては、こういうことに注目してほしいとか、取り上げてほしい等アドバイスをいただきたい。何かあるか。

モデル事業は３つあって、どこかに委託するというので具体的に決まっているということによろしいか。

【事務局：倉】

はい。本来であれば、連携フォーラムのご意見を通じて、これらの事業展開に結び付けるところであるが、初年度ということで、連携フォーラムのご意見と、３つのモデル事業は同時並行で進めていくと考えている。今年度については川崎市の方である程度想定をした事業について公募等の形で実施をしていければと考えている。

【竹本会長】

６月２７日に事例紹介となっているので、早野遊休地対策というのは入っているのか。

【事務局：倉】

まだこの時点では発表できる段階ではない。あくまで事例的なもので、例えば、確定ではないが、こういう形で進行する予定であるとか、既に成功している事例を参考にお話をするという予定でいる。

【事務局：木田】

担当から補足をしたい。６月２７日にはこういう形で委託しているとか、こういう形で公募しているとかそういう段階になると思われる。この段階では具体的なお話はできないと考えている。

【竹本委員】

フォーラムの場で紹介して、うちがやりたいと手を挙げてもらうということか。

【事務局：木田】

その前の段階で公募を始めたいと思うが、今こういう公募をしていますという案内はできると思う。

【事務局：倉】

公募の途中経過のような形になると思う。



【竹本会長】

市が募集をかけるという形か。

【事務局：倉】

はい。

【竹本会長】

ご意見はあるか。

【長谷川委員】

資料3-3の声かけメンバーであるが、麻生区の観光協会はHPもやっているの、声かけメンバーに入れてもよいのでは。

【事務局：倉】

いれるようにしたい。

【長谷川委員】

ありがとうございました。

【竹本会長】

他に、ご意見、ご要望、ご質問はあるか。

モデル事業として福祉があがっているが、日野委員、何かあるか。

【日野委員】

はぐるまの会さんが紹介されており、取り組んでいることは聞いていたが、どのようにして実現できているのかを知りたいと思っている。

【事務局：倉】

はぐるまさんについては、活動場所が早野農業振興地域であるが、早野地区は昔はもともと稲作が盛んだった地域であるが、今は遊休農地が増えており、この遊休農地を使って、商品価値が高い作物を栽培できないか、遊休農地を有効に利用していこうということで、はぐるまさんが手を挙げて、ハーブを植えていただいた。はぐるまさんは非常に一生懸命やっていることもあり、地元にもかなり理解を得て、応援もしていただいて、実際にはぐるまさんのハーブを商品化して新聞にもとりあげられた。地元にも溶け込んで、活動をやっていた経緯がある。

【日野委員】

はぐるまさんと地域の農業の団体が一緒に連携をしながら、取り組んだということか。

【事務局：倉】

固い連携ではなく、農地を借りて、営農指導をしていただいたという形である。

【長谷川委員】

今日は、早野の土志田委員が欠席である。おそらく土志田委員がいたら、モデル事業について意見があったかと思う。土志田委員が不在の時に議論するのは時期尚早かなと思う。

【事務局：倉】

今のお話は、早野で行われてきた経緯の説明であって、今後は土志田委員のお気持ち

を荒立てるような話には必ずしもならないと思う。

**【木所浩美委員】**

農家はこの時期が一番忙しい時期で、連携のことを考えている暇はないという人が多いように思う。いくら市民から応募があったとしても、農家が答えられなかったら連携にならない。

**【長谷川委員】**

農家に危機感があるし、忙しくてもやらなければいけないと思う。

**【竹本会長】**

I C Tモデル事業が事業計画にあるので、小川名委員にご意見をお願いしたい。

**【小川名委員】**

市の方で別途I C Tモデル事業が進行しているのか、神奈川県情報サービス産業協会の代表という立場で出させていただいているので、私たちがこの事業を担っていくというスタンスでよいのかを確認したい。

**【事務局：倉】**

まだこれからである。すでに話をして固まっているということではない。これから公募の形をとっていくので、イメージなども話をさせていただきながら、今後ご協力の話をさせていただくということになる。

**【小川名委員】**

キックオフに関して、私どもの協会でアナウンスをするときに、どのようなニュアンスで紹介をすればよいか。

**【事務局：倉】**

イメージがわくようなお話をした方がよいと思うので、個別にお話しをさせていただきたい。

**【小川名委員】**

改めてお願いしたい。

**【竹本会長】**

田村委員、何かひとことお願いしたい。

**【田村委員】**

**資料3-1** 3事業詳細に、参加募集チラシを作成、常時呼びかけを行うとあるが、裏面に広報誌の発行は年度内に2回とある。ここがよくわからなかったので教えてほしい。

**【事務局：木田】**

呼びかけは、一回固定の方々が集まったらそれで終わりではなく、随時新たな人に声をかけをするというイメージで、呼びかけは一年を通して随時やっていきたいということである。それとは別に、会の活動報告という形で広報誌を年度内に2回発行させていただきたいと考えている。やり方については、紙媒体と川崎市ホームページ、農業関係のメールマ

ガジン、と思っているのですが、そこで発信、それ以外にもあればいろいろ活用させていただいて、委員のみなさまの媒体も、もし可能ならばご協力をいただいで発信させていただければと思っています。

【竹本会長】

関口委員何か意見はあるか。

【関口委員】

声かけメンバーのマスコミ部門であるが、川崎市の新聞にタウンニュースが入っていると思うが比較的タウンニュースを見ている人は多いので、追加するとよいのではないか。

【事務局：倉】

ご意見を参考にさせていただき、マスコミ部門に加えさせていただく案件としたいと思う。

【松成委員】

事業目的の省力化の意味について教えていただきたい。

【事務局：倉】

例えば先ほどICTの話が出たが、水耕栽培で水をやったり、肥料をあげたりするのをコンピューター化した場合、従来は何人かでやっていたものを一人でできたりする。そういうことを省力化のイメージとしている。

【竹本会長】

他にご意見があればお願いしたい。

【越畑委員】

資料3-2の2開催場所の規模椅子形式170人と記載があるか、こんなに大勢来るのか。

【事務局：倉】

最大規模の収容人数である。

【田村委員】

農商工連携で農業は何人くらいいるのか

【事務局：倉】

人数割はこれからほかの商業や工業等の方との関係で決めていく予定である。可能な限りアンバランスな形にならないように考えている。

【田村委員】

人数について調整が必要だと思うので、人数に余力があるようならば私から案内することもできる。

【事務局：倉】

ありがとうございます。またその節はよろしくお願いしたい。

**【竹本会長】**

農商工が市内に存在していて、みんなが会う場がなかったので、これをきっかけにこういうことをやっているということを農家の方にも知っていただきたいということだろう。相互に少しずつ知り合うことで、新しいもの、より付加価値のあるものを作っていければ、あるいは、省力化に寄与するような技術開発が生まれるとか、産業集積をしている川崎市だからこそそのメリットを生かしたいということがこの事業の目的である。開催時期とか、農家の方が忙しい時期であることは事務局も十分わかっている。ただ、先ほど長谷川委員の発言にあったように新たな物を作っていくというような、何か飛び出るものがないといけないということもあり、大変だとは思いますが、川崎の農業の発展のためには、ひとりひとりがご協力いただきたい。消費者の方、今まで農業とは縁がなかった方にも是非ご協力いただきたいと思う。

**【木所浩美委員】**

先日行われた花と緑の市民フェアで、和光大学の方が万福寺ニンジンのケーキを出していたが、和光大学が資料3-3の声かけメンバーに書かれていないので、載せるとよいと思う。

**【事務局：倉】**

資料3-3の教育部門に載っている。

**【竹本会長】**

梶臨時委員ひとことお願いしたい。

**【梶臨時委員】**

この事業は、農業と農業以外の事業を行う人とのマッチングが必要になってくる。先週の神奈川新聞の「かわさき商工人」に(株)ルートレック・ネットワークスの記事が出ていた。

**【竹本会長】**

その神奈川新聞の記事を見ていないが、川崎市が掲載された新聞記事はスクラップしたものはあるか。

**【事務局：倉】**

ある。スクラップしている。

**【竹本会長】**

主要なものをくださるとありがたい。

**【事務局：倉】**

検討させていただく。

**【竹本会長】**

連携推進事業の、声かけメンバーの追加等について、他にもこういうのもあるよということがあれば、事務局の方に報告いただきたい。もうひとつは、6月27日はぜひ皆様も人を誘ってお越しいただければと思う。

本日は議題の2点について、ご意見をいただくというのが主要な内容であったが、皆様から何かあるか。

**【竹本会長】**

もういちど資料1に戻っていただいて、一番下に今後のスケジュールの記載があり、一番下がフォーラムについて、その上が、担い手経営高度化支援事業のスケジュールになっており、一番上が、本委員会のスケジュールとなっている。第1回が本日で、第2回が来年2月となっている。9月に視察会と記載があり、これは前回も少し申し上げたが、川崎の農業の実情ということについて、見る機会があれば私も申し上げたところであるが、視察会については、皆様の自主的な参加を募って開催したいと考えているところである。ご希望の方は奮ってご参加いただきたい。

事務局から連絡事項をお願いしたい。

**【事務局：木田】**

今後については、竹本会長から話のあったとおり、ここでは9月下旬頃に視察会を想定している。ある程度の時期になったら皆様に御案内を差し上げるので、そこで委員の皆様意向を聞き、計画を作っていく予定である。

先ほど説明にあったが、6月27日農業者の皆様がお忙しい時期と重々承知の上でこの時期に予定したところだ。本日の会議を終えて、正式な案内チラシを作成し、皆様のもとにご案内、説明をしたいと考えている。

本日の会議はこれで閉会とする。

以上